



七城ふるさとコスモスまつりの「コスモスウォーク」

平成24年の豪雨で被害を受けた、泗水のふれあい橋。菊池電車の廃線跡を利用

平成28年の熊本地震でボランティアをする菊池南中の野球部員たち

菊池の平成三十年史 「平成」から「令和」へ

5月1日に幕を開けた令和時代。
31年にわたり続いた平成は終わりを迎え、新たな時代が始まりました。
菊池が駆け抜けた平成。その歩みを振り返ります。

【問い合わせ先】市長公室 ☎0968(25)7252



手作りの白龍が懐かしい菊池夏まつり (平成18年)

竜門ダム建設の際、水没地区にあった彼岸花を平成3年に旭志・伊坂区の住民が移植

ほの宵まつり (平成25年)

旧菊池市

- 平成21990年4月 菊池深谷の「四十三万滝」が日本の滝百選に選ばれる
- 平成41992年3月 市民広場が落成、菊池武光公騎馬像が完成
- 平成61994年8月 さくち夏まつり(白龍)がスタート
- 平成101998年8月 岩手県遠野市と友好都市宣言
- 平成122000年3月 菊池東中学校が菊池北中と統合
- 平成142002年4月 竜門ダム運用開始
- 平成162004年6月 さくちべんりカー運行開始

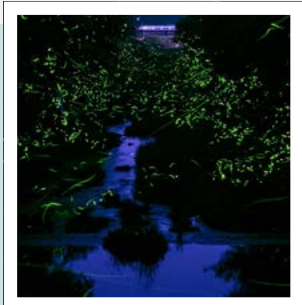
旧七城町

- 平成61994年11月 七城町合併40周年記念式典
- 平成71995年3月 特産品センター(メロン)ドーム完成
- 平成81996年4月 リバーサイドパーク落成
- 平成91997年3月 七城温泉ドームが開業
- 平成111999年3月 七城精米加工施設落成
- 平成111999年4月 メロンドームで光センサーによる選果を開始

平成2(1990)年 旧旭志村

熊本ホテルの里 百選に認定

ホテルの里として現在も多くの観光客が訪れる旭志地区では、平成2年に村内5地区が「熊本ホテルの里百選」に選ばれました。ホテルの生息地は全国で減少が続いていますが、旭志地区では地域の人たちが熱心に保全活動を続けており、幻想的なホテルの乱舞を見ることがができます。



「まるで光のベールのように」ともいわれた旭志のホテルの乱舞

平成3(1991)年

台風19号が襲来

平成最大級の台風により農産物の被害や民家の損壊、停電など、各地域に甚大な被害をもたらしました。

平成4(1992)年 旧泗水町

孔子公園が オープン

町名の由来の一つ、中国の泗水県で生まれた孔子をシンボルとした孔子公園を建設。翌平成5年には旧泗水町と旧西合志町を結ぶ国道387号のバイパスが完成し、車の流れが一変しました。菊池電車の廃線跡は、孔子公園付近の区間を自転車・歩行者専用道路に整備。桜の名所として評判です。



合志方面から泗水を望む。道の駅や温泉施設が建設される前の一枚

平成9(1997)年 旧七城町

七城温泉ドーム が開業

城の形をした印象的な建

物は、温泉や宿泊施設を備えた総合温泉施設。物産コーナーや宴会場も併設され、朝7時まで営業していることもあって、多くの老若男女が利用しています。

平成11(1999)年

くまもと未来 国体開催

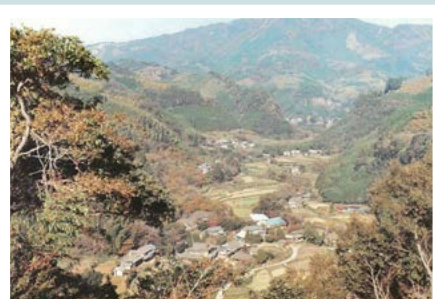
漕艇と剣道(菊池)、成年女子サッカー(七城)、ゴルフ(旭志)、柔剣道と馬術(泗水)を開催。地域を挙げ民泊で選手を受け入れたほか、ボランティアとして協力するなど、大いに盛り上がりました。

平成13(2001)年 旧菊池市

竜門ダムが 運用開始

山あいの竜門地区にダムの建設計画が発表されたのは昭和45年。昭和から平成への時代をまたぎ、計画から32年の時を経て、平成14年に運用を開始しました。ダムを水源としている菊池

川流域の農地約6060畝にかんがい用水を補給しているほか、地域の洪水調節施設としても機能するなど、大きな役割を担っています。公園や資料館も建設され、多くの観光客が訪れるスポットにもなっています。



下半尺地区の裏山から望む上半尺、二ツ野、中村地区。ダムの建設により湖に沈みました

平成17(2005)年 菊池市

平成の大合併 新「菊池市」誕生

菊池市、七城町、旭志村、泗水町の1市2町1村で平成15年に合併協議会を設立。平成16年に合併調印式を実施し、翌17年3月22日に対等合併。新たな菊池市として動き出しました。

旧旭志村

- 平成2(1990)年7月 熊本ホテルの里100選
- 平成4(1992)年5月 第1回ホテルフェスタを開催
- 平成6(1994)年4月 道の駅ふれあいセンター落成
- 平成7(1995)年7月 四季の里・旭志がオープン
- 平成8(1996)年11月 旭志村合併40周年記念式典
- 平成12(2000)年2月 菊池地域農業協同組合本所落成
- 平成14(2002)年8月 鞍岳が遊歩百選に選定

旧泗水町

- 平成元(1989)年3月 町村制施行100周年
- 平成4(1992)年11月 孔子公園オープン
- 平成5(1993)年3月 国道387号のバイパスが完成
- 平成5(1993)年9月 第1回孔子祭り開催
- 平成6(1994)年9月 中国泗水県と友好都市締結
- 平成7(1995)年11月 町民ホールオープン
- 平成9(1997)年8月 泗水図書館オープン

目標は100歳。 令和の菊池も 見守り続けるー

佐々國男さん(新古閑)

昭和元(1926)年12月30日生まれ 92歳



駆け抜けた昭和と平成

「昭和元年が7日間しかないなんて知らなかったけん、驚いたね」。昭和の幕開け「昭和元年」に生まれた佐々國男さん。大正天皇が大正15年12月25日に崩御されたため、昭和元年は12月25日から31日まで7日間と短期間でした。昭和元年生まれの菊池市民は3人。男性は、國男さん一人です。「昭和元年生まれが珍しかなら、これからはちよつとした自慢になるかもしれんねえ」

昭和と平成を駆け抜けた國男さん。それぞれの時代について「昭和は農業ひとすじ。とにかく長かった。平成は孫の面倒を見るのが楽しかったたい。今度は令和。変わりゆく世界を見てきたばってん、時代の流れは速かなあ」と感慨にふけります。佐々家で元年生まれば國男さんだけではありません。孫の團香さんは平成元年生まれ。誕生日は國男さんと同じ12月30日生まれです。さらに妻の故・ミツヲさんも大正9年12月30日生まれ。



左から孫の團香さん、妻のミチヲさん、姉の渡邊 マチコさん、國男さん(当時76歳)。

令和の楽しみはひ孫の成長

昭和元年生まれのエピソードと併せて「誕生日に縁があるとかねえ」と笑います。

90歳頃まで、体力づくりや腰痛の緩和のため、2本の木で支えた棒に2分ほどぶら下がっていたそう。今はテレビを見ることや読書が趣味で、元気の秘訣は食べることと1日3回の食前に飲む養命酒。「食べんといかはなか」と胸を張ります。「令和時代の楽しみは、ひ孫の成長を見守ること。そして、100歳まで生きたかですね」。令和になっても、菊池の歩みを見続けていくことでしょう。

菊池市

- 平成17(2005)年3月 1市2町1村の合併で新菊池市が始動
- 平成19(2007)年3月 菊池ふるさとかるたが完成
- 平成22(2010)年3月 七城中に天才バカボンの石碑を設置
- 平成23(2011)年4月 原付のご当地ナンバーを九州で初採用
- 平成23(2011)年10月 ねりんピックで剣道競技を開催
- 平成23(2011)年10月 菊池温泉が日本の名湯百選に選ばれる
- 平成24(2012)年7月 九州北部豪雨で甚大な被害
- 平成24(2012)年10月 鹿児島県龍郷町と友好都市宣言
- 平成25(2013)年11月 第1回菊池米食味コンクール開催
- 平成26(2014)年7月 流しそつめんで世界記録を達成(33283.80g)
- 平成28(2016)年4月 熊本地震が発生
- 平成29(2017)年4月 菊池川流域の米作りに関わる文化財が日本遺産に登録
- 平成29(2017)年11月 菊池市生涯学習センター「エフクロス」が開館

次世代と歩む 未来の菊池

新たな時代の幕開けとともに産まれる、新しい命。「令和になって間もなく予定日なので、縁を感じますね」と話すのは、5月に出産予定の魚住花音さん（大琳寺）です。

長女の彩心ちゃんは今1歳3カ月。「2人には思いやりがある子に育ってほしい。熊本市から嫁ぎましたが、菊池は自然いっぱい子育ての環境がいい。子どもたちのためにも、令和になっても住みよいまちが続いてほしいです」と思いを馳せます。

新たな世代がつくる、菊池の未来。令和時代の菊池は、どのような歩みを重ねていくのでしょうか！。

